

(四月のことば)

宗家

おにぎり買って花下で食い

マスク掛けての吟じ合

記憶に残す

令和三年三月 全国研修会

三月二十七日、品川の荏原文化センターにて全国研修会を実施した。間隔をとって着座し、換気は常に行った状態。食事は館内ではダメ。会長会議は無し。何とか工夫してコロナに対処して試みた。参加者が少なくてもやれる場所が取れ、実施された事が意味があるものである。考えてみれば去年十月の全国研修会と同じやり方だった。然し、やはり顔を合わせて吟じ合う研修会は良いものだと思った。会場は席を埋めると、うう人数ではないが、始まると、ゆとりを以て会場に広がった参加者に熱いものが感じられる。私の講義が始まる頃には、特別顧問であり横綱審議員でもある杉田亮毅氏が、コロンバの中、駆け付けて参加されていた。お帰りの時には「人生は何時でも旅の途中である。私はそのつもりで一生徒となつて学んでいる」と一言、有難く意味の深い御挨拶を頂いた。

昼食時に当る休憩時間には、幹事長とコンビニストアに行きおにぎり一つを買い、道ばたで腰掛けて頬張り、茶を啜った。晴れた空を見上げながら「何だか記憶に残る研修会だなー」と、どちらともなく呟いたのも印象的であった。……コロナに負けてたまるか。

令和三年四月

※皆様にはライフマスクサポートしを差し上げますが、使用すると吟じやすくなります。